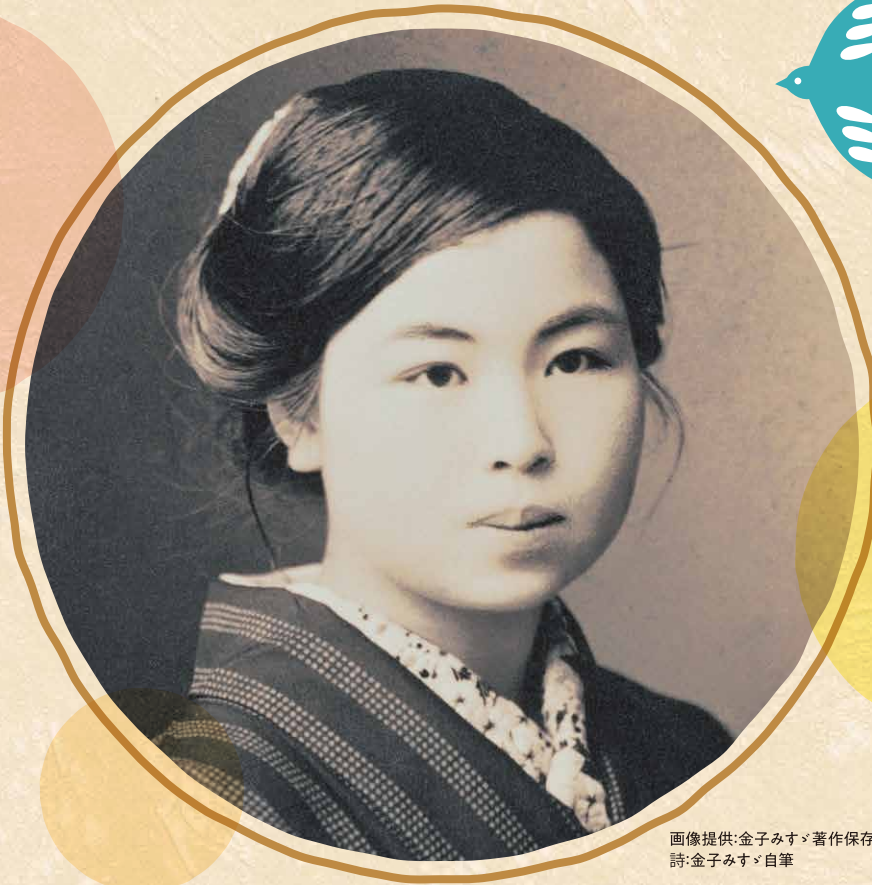


うた

金子みすゞの詩

展覧会

100年の時を越えて



画像提供:金子みすゞ著作保存会
詩:金子みすゞ自筆

私と小鳥と鈴と。

私が両手をひろげても、
お空はちつとも飛べないが、
飛ぶる小鳥は私のやうに、
地面を速くは走れない。

私がかからだをゆすつても、
きれいな音は出ないけど、
あの鳴る鈴は私のやうに
たくさんな唄は知らないよ。

鈴と小鳥と、それから私、
みんなちがつて、みんないい。

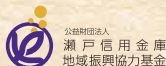


2024.11.29(金) → 12.22(日) 10:00~17:00

文化フォーラム春日井・ギャラリー

愛知県春日井市鳥居松町5-44 ※月曜休館 ※最終入場は閉場の30分前まで


〈入場料〉一般:800円 PiPi会員:700円 大学生:500円
高校生以下・未就学児・障がい者(介助者1名):入場無料



〈助成〉この事業は(公財)瀬戸信用金庫地域
振興協力基金からの助成を受けました。

〈協力〉金子みすゞ記念館、金子みすゞ顕彰会、
金子みすゞ著作保存会、フレーベル館、JULA出版局

〈後援〉春日井市教育委員会

公益財団法人
〈主催・問合せ〉  公益財団法人 かがしい市民文化財団 TEL:0568-85-6868 www.kasugai-bunka.jp

【展覧会】

金子みすゞの詩

うた

100年の時を越えて

「大漁」「私と小鳥と鈴と」「積った雪」などの作品で知られる童謡詩人・金子みすゞ。本年、金子みすゞは生誕から120年を迎えます。そして、はじめて投稿した作品が、『童話』『婦人倶楽部』『婦人画報』『金の星』の4誌に一齐に掲載されてからちょうど100年にもあたります。金子みすゞは「若き童謡詩人の中の巨星」と称賛されながらも、26歳の若さで世を去ると、その存在は長く忘れ去られていました。しかし、みすゞの童謡に心ひかれた人々の思いはとぎれることなくつながり、時を経て、矢崎節夫氏による3冊の遺稿手帳発見、『金子みすゞ全集』発行に結実しました。童謡という、誰にでもわかる言葉でうたわれたみすゞの作品は、彼女が生きた大正時代から100年の時を越えてなお輝き、今の私たちを魅了し続けています。本展では、みすゞが情熱をそそいだ童謡の世界を、遺稿手帳や当時の資料で紐解くとともに、みすゞ直筆の童謡や絵本の原画などを通して作品の魅力を紹介します。

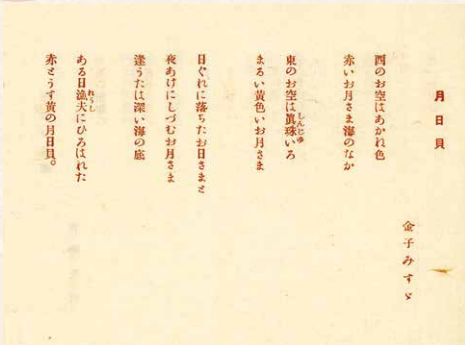
【展示予定作品】



「大漁」(直筆の詩)



「私と小鳥と鈴と」(直筆の詩)



童謡同人誌『曼珠沙華』(大正14年)より「月日貝」
みすゞが参加した大正14年同人誌『曼珠沙華』は、これまで存在は知られていなかった。みすゞの「月日貝」の初出掲載誌でもある。



3冊の遺稿手帳



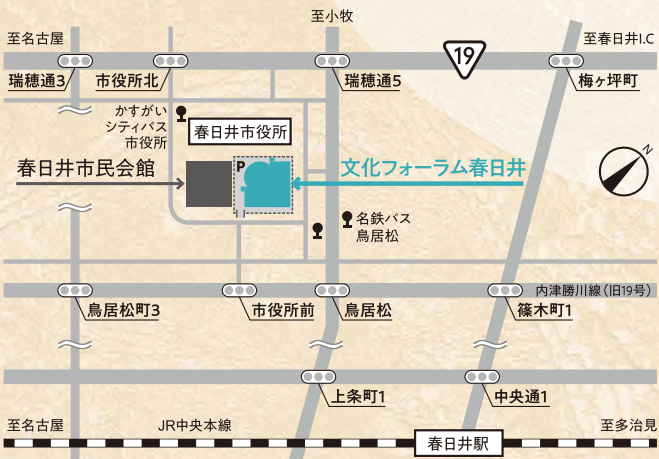
掲載誌『童話』『婦人画報』『金の星』
(すべて大正12年9月号)

【グッズ】



A4クリアファイル、一筆箋、ノート、ポストカード、
マスキングテープなど詩のイメージでデザインされたグッズ

- 【出品作家】(第3章) 有川京子(陶芸)、いわたまいこ(切り絵)、シダミホコ(ワイヤーアート)、須佐沙知子(羊毛フェルト作品)、高木栄子(紙わらべ)、マカベアリス(刺繍)
- (第4章) 浅沼とおる、伊藤智之、上野紀子、尾崎眞吾、きくちちき、黒井健、高島那生、羽尻利門、松本春野、森川百合香 ※五十音順敬称略
- (マップ) さかもとすみよ



【関連企画】講演会「童謡の誕生と金子みすゞ」

講師=矢崎節夫(童謡詩人・金子みすゞ記念館館長)

2024年11月30日(土) 10:00~11:30

文化フォーラム春日井1F・交流アトリウム 参加費=無料 定員=200名

※都合により、内容・日程が変更になる場合があります。予めご了承ください。

交通のご案内

- JR中央本線「春日井駅」北口より
 - 名鉄バス「鳥居松」下車すぐ
 - 徒歩20分
 - 無料レンタサイクル5分(日・祝休み)
 - かがいシティバスでお越しの方「市役所」下車すぐ
 - 駐車場無料
- 駐車場は混雑が予想されます。なるべく公共交通機関や乗合せをご利用ください。

主催・問合せ

公益財団法人
かがい市民文化財団

TEL:486-0844

愛知県春日井市鳥居松町5-44

文化フォーラム春日井

TEL:0568-85-6868

www.kasugai-bunka.jp

